

(様式2)

## I 学校の概要

アクティブ・ラーニング研究推進モデル校事業

高松市立古高松中学校

### ◆生徒数及び教員数

○生徒数

第1学年	第2学年	第3学年	特別支援	全校
6学級 195名	5学級 174名	6学級 191名	2学級 9名	19学級 569名

○教員数 37名

### ◆学校の特色

本校は、校訓である「自立・友愛」や、学校スローガンである「支えよう仲間を・高めよう自らを」のもと、生徒会役員が中心となり、「あいさつ運動」「ボランティア清掃」などの、様々なボランティア活動に取り組む、明るく活気のある学校である。

しかし、以前は授業の成立が困難な時期もあり、授業を成立させ学力を高めることを目標に、教職員で授業を参観し合ったり、行事を行ったりし、問題行動があればチームで取り組むことができるようになってきた。「すっきり導入」「しっかり展開」「はっきり結論」といった一時間完結型の授業で生徒の集中力を高めること、「ユニバーサルデザイン」の考え方を取り入れることなどの授業改善を行ったことで、学習に対する生徒の意識も向上した。平成28年度からは、授業において話し合う活動に力を入れた結果、自分の意見を述べる姿も多く見られるようになっている。

## II 研究主題等

研究主題

### 言語を介して能動的に関わる力の育成

#### ◆研究主題設定の理由

今、社会は急激な速度で成長を遂げており、そのため以前では予想もしなかった課題に直面している。それらの課題に対して、互いに協力し、よりよい答えを出していくために、これからの社会を生きていく人を作る教育が果たすべき役割が変わってきている。これからはますます、思考力・判断力及び表現力が重要視され、知識を活用することが大切となる。また、どのような知識を得るかではなく、何のために学ぶのかといった、学びの転換も図られている。

そんな中、本校の平成29年度の生徒の意識調査からは、授業で話し合い活動は行われているが、話し合い活動によって内容が広がったり深まったりしていると考えている生徒が少ないことが浮き彫りになった。本来意味のあるはずの話し合い活動を設定しても、内容が形骸化していることが分かったのである。「言語を介して能動的に関わる力」(＝伝える力)を育成し、話し合い活動によって学力の向上を図っていきたいと考え、本研究主題を設定した。

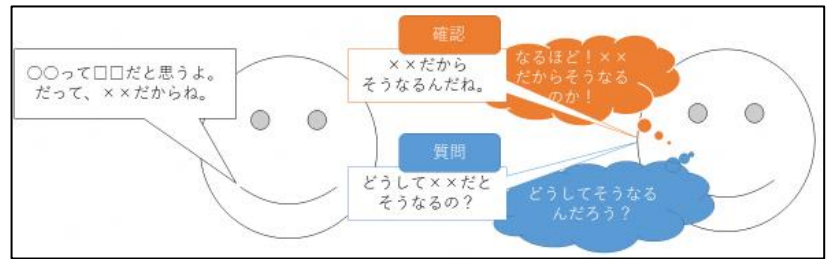
## ◆研究内容及び方法

### ○ キーワード

「訊き合う活動」「振り返り活動」

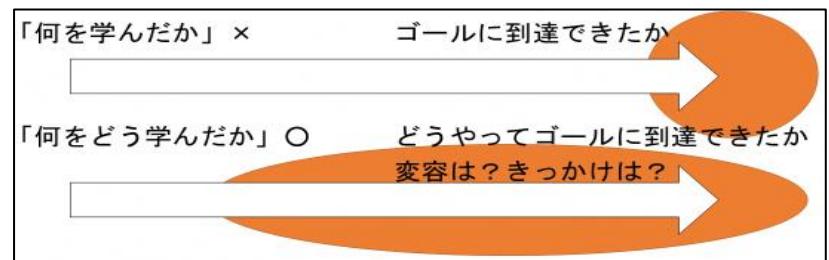
### ○ 「訊き合う活動」について

「訊き合う活動」とは、一方的に発言するだけの交流活動とは異なり、発言した内容に関して「確認」「質問」を繰り返す、双方向の交流活動である。



### ○ 「振り返り活動」について

「振り返り活動」とは、従来の学習内容の振り返りを超えて、学びの過程を振り返る活動である。



### ○ 昨年度の取組からの課題

昨年度は、「質問」を中心にした交流活動

である「訊き合う活動」と、思考の過程を振り返る「振り返り活動」を、教科を超えて行うため、8月の現職教育でワークショップを行った。その後、校内公開授業週間を設け、全員が「訊き合う活動」「振り返り活動」を学習過程に位置付けて授業を行い、それらを見学し合った。10月には香川大学准教授の岡田涼先生をお招きし、アクティブ・ラーニングについて、また本校の取り組みについてのご講話をいただいた。この取り組みを通して、次のような課題が明らかになった。

- ① 「訊き合う活動」について、「質問」に重きを置きすぎて、活動自体が難しいものとなってしまった。
- ② 「訊き合う活動」についての具体的なイメージの共有ができなかった。また、話型やルールを作ったが、教科の特性を考慮したものとなっていない。
- ③ 「振り返り活動」の考え方のみを提案したため、具体的にどうすればよいか分からず、「振り返り活動」が定着していない。

### ○ 本年度の取組

①～③の課題を克服するため、以下の点を重視して取り組む。

- ① 「訊き合う活動」について、「確認」に重きを置き、双方向の交流活動とすることで、自分の伝え方を振り返る場、自分の考えが伝わったことを確認する安心の場としていく。
- ② 「訊き合う活動」についての具体的なイメージの共有を図るために、実際の授業での「訊き合う活動」の場をビデオで撮り、どのような教師の仕掛けや、実際の生徒の発言が良かったかなどの全体交流を行う。また、「訊き合う活動」が行われるための、様々な手立てを示し、教科の特性に応じて選べるようにする。
- ③ 「振り返り活動」では、「どこでつまづいたのか」「どうして自分は納得できなかったのか」など、思考の過程を振り返ることができるような具体的な問いの形を作成し、提示する。

### III 研究実践

#### ◆指標設定と達成に向けた取組

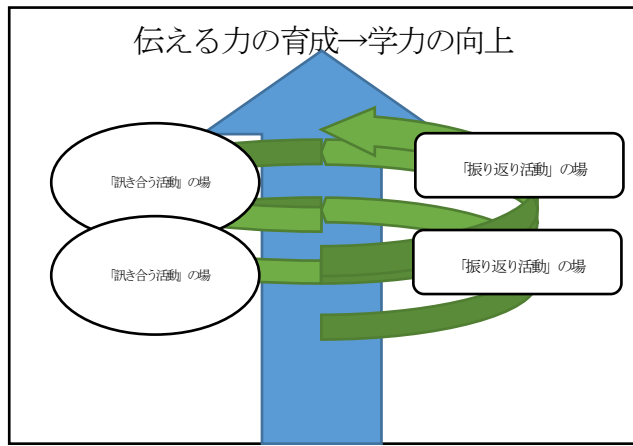
1 (生徒質問紙) 普段の授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか。

指標 ①はい



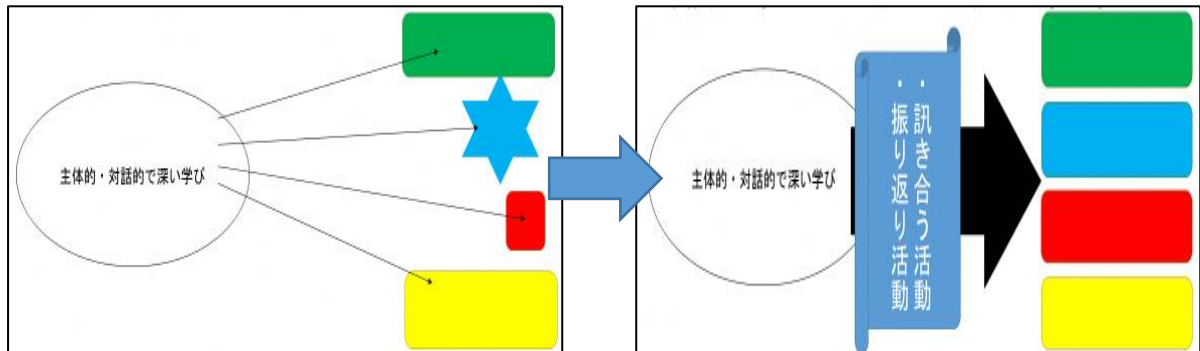
#### 指標の達成に向けた実践

- 次のような仮説を立てて、研究を行った。  
聞き手が「確認」「質問」を行いながら双方向の交流活動(=訊き合う活動)を行い、また思考の道筋をたどり、新しい気づきを確認する(=振り返り活動)ことで、「伝える力」(=言語を介して行動的に関わる力)が高まり、学力が向上するだろう。(図1)



(図1. 仮説イメージ図)

- そのために、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、教科横断的に、「訊き合う活動」「振り返り活動」を行うという共通理解・共通実践を図った。(図2)



(図2. 取り組みのイメージ図)

2 (生徒質問紙) 普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。

指標 ①思う



2 (生徒質問紙) 学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり深めたりすることができていますか。

指標 ①できている



### 指標の達成に向けた実践

#### ○ 教科横断的な取組の必要性

昨年度は、国語科が中心となっていたため、教科によっては、教科特性により、「話し合う活動」は難しいのではないかという意見もいただいた。そこで、「話し合う活動」の内容を、教育相談のピアサポート活動を参考にした「確認」「質問」という双方向のコミュニケーションへと見直した。また、新学習指導要領から、「学習の基盤」となる資質・能力の一つである言語能力を身につけるために、教科横断的に取り組む必要性についても共通理解をした。

#### ○ 教職員の成功体験を基にした取組へ

8月に香川大学より岡田涼先生をお招きし、それぞれの教職員が行っている実践から良いものを拾い上げていくというワークショップを行った。普段の授業を振り返り、うまくいった事例を述べ合う中で「話し合う活動」のイメージを広げると共に、普段行なっている活動が「話し合う活動」になっていることに気付き、成就感を得ることにつながった。



(教職員での実践の交流)

#### ○ 理論を基にした取組へ

昨年度同様、岡田先生より、「話し合う活動」を通して行おうとしていることが、主体的・対話的で深い学びにつながっていることや、「協同学習」とのつながりについてご講話いただくことで、「話し合う活動」が効果のあるものであるという裏づけをいただいた。(図3)

・香川大学准教授 岡田涼先生のご講話より

「話し合う活動」について

・「協同学習の要素」(ジョンソンら、2010)

- ① 肯定的な相互依存
- ② 促進的な相互交流
- ③ 個人の2つの責任
- ④ 集団作業スキルの促進
- ⑤ 活動のふり返りと改善

自分ができるようになる

仲間ができるようになる

(図3. 岡田先生のご講演プレゼンテーション資料より)

#### ○ 「『話し合う活動』になるために」

岡田先生から、「『話し合う活動』になるために」、次の7つの視点を挙げていただいた。

- |                     |                    |                 |
|---------------------|--------------------|-----------------|
| ・活動しやすい人数か?         | ・話し合いや思考の流れが見やすいか? | ・質問・確認の場があるか?   |
| ・質問の観点や話型が伝わってくるか?  | ・話を訊いてみたくなる課題か?    | ・話し合うことに利点があるか? |
| ・責任を共有するつくりになっているか? |                    |                 |

○ 『訊き合う活動』の実践例

<p>S1: ①これXとYじゃなくて3つ目いるんじゃないね? とりあえずさ、とりあえず4の20にしよう</p> <p>T: なんで3つ目いると思ったん?</p> <p>S1: えーなんか3つあるんで</p> <p>T: 何が?</p> <p>S1: あのー、新聞紙とダンボールと</p> <p>S2: でも、ダンボールはでとるよ、もう60って</p> <p>S1: ほんまやなあ</p> <p>S2: やけん、新聞紙をXにして出して</p> <p>S1: じゃあさ、ダンボール引こうぜ、もう、①480からダンボールを引いたらいいんじゃない?</p> <p>S2: そうそうそんな感じ</p> <p>S1: これが全部新聞紙やけん、次は金額を出せばいい</p> <p>S2: ってことはこうなるんやんな、こうなるんじゃないん?、<math>3X + \dots</math>これが重さで、これが金額</p> <p>S1: お前それあれやで、ダンボールも入っとなで</p> <p>S2: ダンボールだってでとるやん。</p> <p>S1: ②これらをすべてって買いとるやん、これらをすべて足してやのに、なんでここしか足してないん?</p> <p>S2: ②え? 何が?</p> <p>S1: いるやん、ダンボールも、これらをすべてやん</p> <p>S2: ③ダンボールもいるってことはここにダンボールを入れろってことやな</p> <p>S1: そうそうそう</p>	<p>S2: <math>10Y - 60X</math>…ってことか</p> <p>S1: そうそうそう</p> <p>S2: ①待って、ねえねえ、ちょっと思ったんやけどさあ、こうしたほうがよくねえ? <math>60 + X + Y = 480</math>だったらどっちにしても引けるやん、これの方がよくね? これのほうがどっちにしても引ける。</p> <p>T: なんでこっちのほうがええと思ったん?</p> <p>S1: え? なんか先に、まず引き算の式がないんで、こっちのほうがまだ。</p> <p>S2: おれもこれはおかしいと思った。</p> <p>T: 引き算の式がないっていうのは?</p> <p>S1: やけん420になんでなるかっていう式がない。</p> <p>T: あー420の数がでてきてないのに、420が入ってるからおかしいよねってことか。</p> <p>S2: ③やけんここに詰めこまないかんのやな、引く式と、重さの式を</p> <p>S1: ってことは次、金額のやつをなんかにせんといかんけん。</p> <p>S2: 金額は金額でこれでええん。とりあえずこの上の式が完成したよ。</p>
---	--



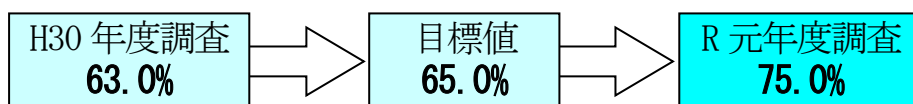
(『訊き合う活動』の様子)

上記より、自分の言いたいことをただ述べるだけでなく、自分の意見を述べる際には次のような工夫が見られる。

- ・ 自分の意見を質問形式にする(①)
- ・ 相手の意見に対して疑問を持った際に質問をする(②)
- ・ 相手の発言を確認する(③)

3 (生徒質問紙) 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていると思いますか。

指標 「①取り組んでいる+②どちらかといえば取り組んでいる」の合計



3 (授業改善のためのアンケート) 自分で考えた内容を振り返ることで、新しい気付きや発見がありますか。

指標 ①はい







◆特徴的な取組

授業討議について

○ 校内公開授業週間を活用した授業参観・授業討議

岡田先生より示していただいた「訊き合う活動」「振り返り活動」の視点を基に、授業の記録用紙を作成した。(図5)

授業討議では、授業中の「訊き合う活動」「振り返り活動」における「良かった点」「アイデア」について話し合った。これにより、「訊き合う活動」「振り返り活動」を行う上で良かった点はどこか、さらに良くするには具体的にどういことができるかを、観点別に考えることができた。また教科を超えてそれを行うことで、他の教科の手法を取り入れることもねらうことができた。授業者は討議後、自分の授業で今後も続けていくこと、新しく取り入れてみたいことを振り返っていた。授業参観、授業討議を行った教職員も、自身の授業に取り入れたいことを見つけていた。

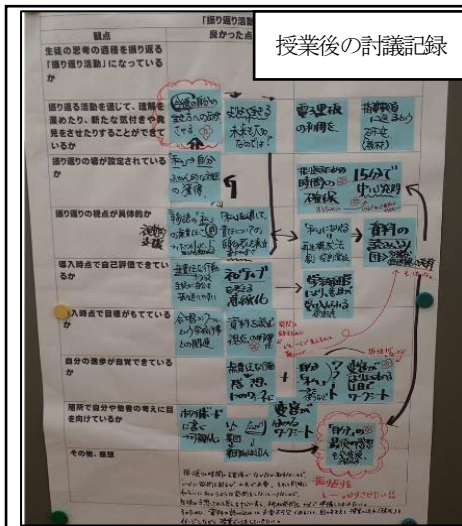
「訊き合う活動」について		
観点	良かった点	アイデア・改善
「質疑」「質問」などの双方向の交流活動になっているか		
生物館での話し合う活動を通じて、考えを深めたり、広げたりすることができるか		
「訊き合う活動」となるための授業設計の視点		
観点	良かった点	アイデア・改善
活動しやすい人間か		
話し合いや思考の流れが見やすいか		
質問・確認の場があるか		
質問の観点や語彙が促わってくるか		
話を聞いてみたくなる課題か		
訊き合うことに利点があるか		
責任を共有するつくりになっているか		
その他		

(図5. 授業参観のワークシート)



授業討議を通して(『訊き合う活動』)(理科)

- ・ グラフの選択肢を作り、意見をグループ化することで、ズレに気付かせ、理由に目を向けさせる
  - ・ 付箋に理由を書かせ、移動できるようにする
  - ・ ワークシートの形式を工夫し、初めの考えからの変遷が分かるようなワークシートにする
  - ・ 全体交流の際、分かったことの交流ではなく、疑問に思ったことや質問の交流を行い、理解を深める
- という4つを次の授業に取り入れてみたい。



授業討議を通して(『振り返り活動』)(道徳)

- ・ 今後の自分の生き方を反映させる
  - ・ 振り返るための時間の確保を行うために15分で中心発問へ
  - ・ 変容が一目で、よりよく分かるワークシートの工夫
  - ・ 「自分」の最後の感想を交流後に再度深める
  - ・ 教材分析を学年団で行うことで、多様な価値観を共有できる
- 振り返りの時間の確保がなかなか取れないので、いかに発問を絞るか工夫が必要。それと同時にねらいに向かうような発問をしないといけないので、生徒の予想される答えを十分に考え、補助発問も+αで準備しておきたい。そのために、資料の読み込みは必要不可欠であることを、学年団の先生方と授業の流れ(構成)をイメージしながら授業作りをしていきたい。

他教科を参観しての感想(国語)

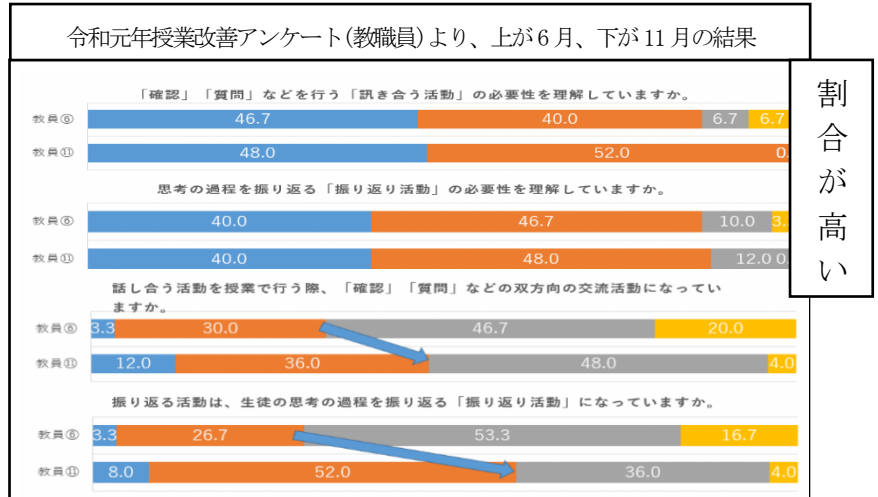
やはり訊き合う活動で1番大切なのは「課題設定」だと感じた。他教科のように実物を見せてから疑問をひっぱり出すというのが国語でもできたらいいなと思う。グループの作り方や教具はどの教科でも使えることなので、生徒たちの中に訊き合う力がついてきていると、どの先生も感じていた。他教科の取り組みややり方を聞くと大切!

## IV 研究の成果と課題

### ◆研究の成果について

#### (1) 教職員の意識の向上

R 元年度授業改善のためのアンケートを6月と11月に実施した。結果より、「話し合う活動」「振り返り活動」が授業改善において必要なこと、そしてそれが自身の授業で行われていることについて肯定的な回答をする割合が増えている。



#### (2) 生徒の変容について

「Ⅲ研究実践」より、アンケートの数値が昨年度より大きく伸びているところから、生徒の成長が伺える。また、1月16日に行った公開授業にて、指導主事の先生に次のようなご感想をいただいた。

##### ○「話し合う活動」について

- 子どもたちの姿が自然である。「分からない」ことは「分からない」と言える。また、それに対して、「どこが分からないの？」と聞ける。ある司会の生徒は、「自分ばかり話しているから、みんながどう思うか知りたい。」という発言もあった。訊く力、傾聴することが、価値のあることであるということを理解している生徒が増えている。
- 生徒が、「話し合う活動」を通して、成功体験を繰り返していることがいい。
- 低学力の生徒が躓く寸前に、「話し合う活動」によって助けられている様子が伺える。

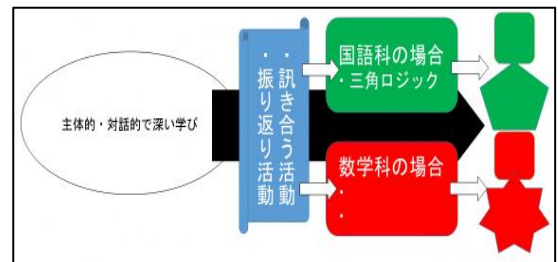
##### ○「振り返り活動」について

- 意見が変わった場合はなぜ変化したか、意見が変わっていない場合は新しく獲得した知識を書くよう指示していて良かった。
- 振り返りの時間をしっかりと確保していた。その時間を毎時間確保していけば、生徒は自然と振り返るようになる。また、問題を解きながら、他の生徒の話を聴きながら、「今の考え方は〇〇だった」と、メタ的に振り返る生徒が増えてくると思う。

### ◆研究の課題・今後の展望について

#### (1) 教科の特性を踏まえた取組

「話し合う活動」が教科によって定まっていないう意見があった。「話し合う活動」はもともと国語科から出てきたものであるため、国語科では技能として指導・評価ができるが、他の教科に落としていくときに、齟齬が出る可能性がある。



(図6. 教科ごとに『話し合う活動』を定義する)

教科ごとに、教科の特性を踏まえて考え直していくことが次年度以降求められる。(図6)

#### (2) 生徒の関係性を高める

アンケート結果から生徒は、質問したり確認したりしたいという意欲はあるが、そのスキルがない、と感じていることが読み取れる。「話し合う活動」により学習内容をさらに深めるためには、ピアサポート活動やSSTなどで、生徒の関係性やスキルを高める必要があるとも考えられる。

